

ピースクラブ通信

No.27

発行所 社会福祉法人 ピースクラブ
〒556-0014 大阪市浪速区大國1丁目11-1
Tel & FAX 06-6647-2077
Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp

ピースメンバーと母

比嘉洵子（朝子の姉です）

電話すると大阪から入れて貰ったり、80歳来てるよと母が言っていました。数年前は少し困惑した感じも見られましたが、この頃は違います。余裕？声が弾んでいる。なぜって皆さんが必ず声をかけてくれるし、見ず知らずの方が丁寧に父の仏壇にも手を合わせてもらっている。そして何よりもマッサージして貰ったり、気をいいます。おからサラダをポール一杯作ったら美味しいと言っ



▲宮古、東平安名崎にて
(朝子さんのお母さんの写真がほしかったのですが、原稿のことをバラしてしまい、いいです、と断わられてしまった。)

ピーコラ

30年前、当時山口県萩市で民宿「土の宿」をやっていた木村浩子さんが、こんど沖縄から男の子が来るわよ、と言っただけでかいがつぶらな瞳の青年が来た。それが若冠19歳の岸本隆との出会いである▼間もなく2人は山口を離れ、音信は途絶えたが、10年ぐらいたったところか、同じ山口の近い場所から暮らすようになり、それ以後の付き合いで私もここ大阪ピースクラブに居る▼その2人はまた前後して宮古島で暮らすことになる。はじめは知り合いも少なく、孤独のうちに制作に打ち込めると思ったのに、大阪にいるのとあまり変わらぬではないか(笑)
▼あれから30年がたち互いに身体もくたびれてきているので、どんな付き合いになることやら
(普)

んぶ食べてお土産に持っていったサア、ワーブニにもよく食べるよとすぐ嬉しうに話します。

皆さんが宮古島に着いたその日にいつまでいるかと言つて必ず確認します。それで皆さんが大阪に帰る日が来ると、多分数日前から頭の中であれと、これと、あれ・・・と、何をお土産に持たせようかと計算しているようです(笑)これがピースメンバーと母の

結果オーライじゃわり切れん

中村晋作

左記に紹介するのはある国会議員(野党・民主党)に送ったメールである。この通信

関係?。80歳になろうとしている母の元気の源は、近くにいる長男でもなく、東京にいる娘でもなく、大阪から来てくれるピースメンバーだと思つています。ありがとうございます。母に元気に生きてもらうにはピースメンバーが宮古島に来てくれることが一番! (かつてですが)大阪から来てくださる皆さんをたぶん心待ちにしている母をこれからよろしくお願ひします。

にも何回か書かせてもらった高速道路障害者割引制度の改正の問題も、このところ、にわかには高速道路自体の無料化の話が浮上してきて、もしそうなれば運動の役割を終わるが、最後確認の意味で送つたもの。広がりを見せなかつた運動の進め方への反省を込めて、もう一度掲載することにします。

◇◇◇
《……前文略……》

さて、きょうは、高速道路障害者割引制度の件で知つていただきたい事があり、メールいたしております。K様には高速道路に障害者割引制度があることはご存知と思ひます。

私自身、脳性マヒという障害をもつ者で、ふとしたきっかけからこの割引制度の改正を求めることとなり、ここ数年間、取り組んでまいりました。

その詳しい経緯は私のホームページの一部
<http://www.geocities.jp/qwmyc1541kousokudouro/kousoku-top.htm> に載せてありますのでお読みいただきたいのですが、知つていただきたい事とい

うのは、100年に一度の不況対策を名目に、この3月からが実施された土日祝日の1000円上限通行により、この制度の問題性が見えなくなつてしまわないかという危

惧です。もちろん距離によつて土日祝日に限り、料金面では障害者割引を上回る割引率となりませんが、制度の矛盾はなにも解決していません。

ホームページにも書いてありますが、私たちが求めてきた改正の内容は以下の2つ
(1) 車両を特定しない、障害者手帳などの提示だけの割引の運用。
(2) ETC化の流れの中でも、同様の運用方法の具体化、です。

(1)はそうしなければ、自分の車を持たず、日常的に生活を共にする家族や介助者のいない障害者はこの制度が適用されません。それに対して、個人的理由

ピースの住人の夜の生態



で割引するのではなく（当然です、だからこそ）、制度が適用されない者がいても仕方がないと言いつける、その高速道路会社の体質がいちばんの問題です。また各障害者手帳を持つ者が何人乗っていても登録していない。車では割引されない。制度は通院、通学、通勤のためのみのもので

あり、行楽などには適用されない、などなど、理解しがたい話です。私もはこれまで、高速道路株式会社と交渉を試みてきました。が、会社側のあまりの誠意のなさに、いまでは高速道路を利用する際、割引分である半額の通行料を支払うことをやっています。K様

が代表代行を務められる民主党は、自分たちが政権をとれば高速道路は無料化すると

でしようか。2011年までの期限付き料金体制で、期限が切れてまた元に戻ることありえます。そのときのためにこの問題を風化させたくはないので、こんごお力添えをいただけたらと思います。これまで何度もこう

した手紙を書いてきましたが、たいい秘書室どまりで、K様ご本人のお手元に届けば幸いです。追記 7月2日現在メールに対する応答はない。また運動に賛同して半額不払いを続けている仲間、数千円の督促に1回何百円という無駄が行なわれている。

映画「生きる」の感想

佐伯利也

5月30日、ピースの4階で木村浩子さんのドキュメンタリー映画「生きる」の上映会がありました。この映画は、木村浩子さんの生きて来た過程が描かれていました。自分自身も障害がありますが、この映画を観て感じたことは、どんな重い障害があってもそれを自覚して、それを克服しようとする気持ちが大切なんだと感じました。

今回、晋作さんに映画の感想を依頼された。僕は本当に困りました。それは何故かというのと映画を観て何と書いて良いのか解らないので、この文章を書きました。

僕は、今、人の人生を見て、その人らしい生き方をしている人にくく感動します。何かという僕は近頃やと自分を客観視出来るようになり、それと同時に自分の生き方にナーバスになっていくからです。逆に言う、僕は40余年もの長い間、自分の人生を無駄にしてしまったなどという思いがすごくしているのです。人生たった一度で、その人生をどう生きるかなんて自分で方向付けるしかないのだけど、最近自分が不思議でたまらなくなってきたのです。その原因が今回の映画を観てはつきりしました。それは浩子さんが自分の障害をもつとせず人と積極的にながり、明るく前向きに生きているのに対し、自分は自分の障害に甘んじて人とつながらず、おまけに人の苦勞や頑張りを解かるうとせず、気楽に生きて来たつけが、大きなものとなってふりか

かっているのだと感じています。

でも、この上映会の時に僕は改めて人が生きる事の大切さと素晴らしい事を知りました。僕は今まで自分らしく生きていかなかったと感じています。それは何故?どうして?と自分に問いかけるのです。が、どうしても答えが見つかりません。見つからないというより、ないのだろうなと思っ

ています。それは自分の思っている世界と現実とのギャップが大きくかけ離れているからだと思います。僕は、誰にも解かり得ない不可解な障害、病気に立ち向かい、少しでも自分らしく生きる事に心掛けたと思います。そして、子供の頃からの夢(大切な人と生きる事)を実現させる為に頑張っていると思います。

さらからのスケジュール

- 8月1日(土) あべちゃんライブ
- 8月13日(休)～16日(日) ピースクラブ盆休み
- 8月21日(金)～23日(日) 共同連大会
- 9月12日(土) グループホームスイッチ会議
- 9月13日(日) エイサーまつり (大正区・千島公園)